令和２年度第１回下水道運営審議会　会議録

〔事 務 局〕　下水道経営課

〔開催日時〕　令和２年１１月２５日（水曜日）午後２時～午後３時

〔開催場所〕　伊勢原市終末処理場２階　会議室

〔出席者〕　（敬称略）
（委　員）安藤忠勝会長、橋場誠二副会長、石田操、笠原俊男、栗原誠人、
田村貴寿、西村賢一、萩原忠夫、竹内裕子、松原沙織
（欠　席）佐藤義一、牧野克子
（事務局）石塚俊彦下水道担当部長、
芦川友広参事兼下水道整備課長、杉崎友則下水道施設担当課長、
石井啓治下水道経営課長　外６名

〔公開可否〕　公開

〔傍聴者数〕　１人

《審議の経過》
１　開　会
２　議　事
（１）令和元年度公共下水道事業会計の決算状況について
上記の内容について、事務局から資料に沿って説明が行われた。
【質疑応答】
（委　員）今後の人口減少や資産の老朽化などが見込まれるが、その対策に係る費用は計上されているのか。
（事務局）人口減少に対する対応や資産の老朽化への対策として、建設改良費などの基金を積み立てることが考えられるが、そこには至っていない。これらの対策を含めた経営方針に関することは、本年度に策定している経営戦略で提示したい。

（委　員）コロナ対策として行っている現状の取り組みはあるのか。
（事務局）使用料の納付について、希望者に納付の猶予を行っているが、今のところ実績はない。

（委　員）人口減少が見込まれる中で、今後も利益を維持するためには使用料の改定もやむを得ないと感じるが、どう考えるか。

（事務局）使用料の改定について４年に１度、検討を行っており、令和３年度に検討を行う予定である。令和元年度決算には反映されていなかったが、新たに多量排水が見込まれる事業者の立地により、使用料収入は上昇傾向にある。今後の社会情勢を見ながら市民の理解を得られるように慎重に判断したい。

（委　員）営業収益に対して営業外収益の比率が上回っているが、主たる収益よりも補助的な収益が多い状況をどう考えるか。

（事務局）営業外収益には長期前受金戻入が含まれている。減価償却費に対して収益の関係にある長期前受金戻入を営業収益に加えると、主たる収益により運営できているので問題はないと考える。

（委　員）未収金が３億円あるが、その内容はなにか。

（事務局）未収金のほとんどが下水道使用料である。検針により調定が起きた時点で収益となるが、２月、３月の点検分は、４月以降の入金となるため、未収金が発生している。なお、未収金の徴収率は９７％超となっておりそのほとんどが回収できている。

（２）受益者負担金制度について

上記の内容について、事務局から資料に沿って説明が行われた。

【質疑応答】

（委　員）単位負担金額を算定するための末端管渠とは何か。

（事務局）下水を排除する面積が２０ha 以上の幹線管渠を除いた小規模な管渠を末端管渠と呼んでいる。

３　その他

４　閉会